令和４年度　（2022 年度 ）

講　義　概　要

～目の前の人に寄り添ういちばんの存在へ～

[介護福祉学科]

ありがとう、と言われること。
電波学園

学校法人　電波学園
あいち福祉医療専門学校

目　次

求められる介護福祉士像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
カリキュラムの全体像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
教育課程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
アドミッションポリシー・介護福祉学科基本方針・・・・・・・・・　4

領域：人間と社会

領域の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
人間の尊厳と自立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
人間関係とコミュニケーション（基礎）・・・・・・・・・・・・・・　7
人間関係とコミュニケーション（応用マネジメント）・・・・・・・　8
社会の理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
PC・タブレット活用技術（介護福祉編）・・・・・・・・・・・・・・　11
健康プロモーションEX・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
実践手話技能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
福祉住環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

領域：介護

領域の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
介護の基本Ⅰ（介護概論）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
介護の基本Ⅱ（連携・協働）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
介護の基本Ⅲ（自立支援）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
コミュニケーション技術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
生活支援技術Ⅰ（基礎・理論A）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
生活支援技術Ⅱ（基礎・実践A ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
生活支援技術Ⅲ（基礎・理論B）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　28
生活支援技術Ⅳ（基礎・実践B）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
生活支援技術Ⅴ（応用・実践A）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
生活支援技術Ⅵ（応用・実践B）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
介護過程Ⅰ（基礎）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36
介護過程Ⅱ（実践・応用）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　38
介護総合演習Ⅰ（介護実習Ⅰ－１．２）・・・・・・・・・・・・・・　40
介護総合演習Ⅱ（介護実習Ⅰ－３．Ⅱ）・・・・・・・・・・・・・・　42
実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－1）（基礎①）　・・・・・・・・・・・・　44
実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－2）（基礎② ）・・・・・・・・・・・・・　45
実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－3）（基礎実践）　・・・・・・・・・・・　46
実習基準Ⅱ（介護実習Ⅱ）（専門実践）・・・・・・・・・・・・・・　47

領域：こころとからだのしくみ

領域の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
こころとからだのしくみⅠ（一般基礎）・・・・・・・・・・・・・・　49
こころとからだのしくみⅡ（形態別基礎）・・・・・・・・・・・・・　51
発達と老化の理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　53
認知症の理解Ⅰ（基礎）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　55
認知症の理解Ⅱ（専門）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56
障害の理解Ⅰ（基礎・専門A）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　57
障害の理解Ⅱ（専門B）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　58

領域：医療的ケア

医療的ケア（基礎）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　59
医療的ケア（演習）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　61

求められる介護福祉士像

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する

2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる

3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる

4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる

5. ＱＯＬ（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる

6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる

7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する

8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる

9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる

10. 介護職の中で中核的な役割を担う

＋

高い倫理性の保持

カリキュラムの全体像

目　的		教育内容	ねらい
人間と社会	1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護 の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を 養う。 2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うため の、コミュニケーションやチームマネジメントの 基礎 的な知識を身につける。 3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点か ら、地域社会における生活とその支援について の基礎的な知識を身につける。 4. 介護実践に必要な知識という観点から、社会 保障の制度・施策についての基礎的な知識を 身に つける。 5. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断 力及び豊かな人間性を養う。	人間の尊厳と自立	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉 の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。
		人間関係とコミュニケーション ・基礎 ・応用マネジメント	(1)対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュ ニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 (2)介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を 理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。
		社会の理解	(1)個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の 関係性を体系的に捉える学習とする。 (2)対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地 域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。 (3)日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。 (4)高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、 介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。
介護	1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解 し、専門職としての態度を養う。 2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面 に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を 習得する。 3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを 実践するための、コミュニケーションの基礎的な 知識・技術を習得する。 4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の 生活を地域で継続するための介護過程を展開 でき る能力を養う。 5. 介護実践における安全を管理するための基礎 的な知識・技術を習得する。 6. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実 践に必要な観察力・判断力及び思考力を養 う。	介護の基本 ・介護概論 ・連携、協働 ・自立支援	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援す るためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学 習とする。
		コミュニケーション技術	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーショ ンの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う 学習とする。
		生活支援技術 ・基礎、理論A,B ・実践、応用A,B ・家事、家政、栄養	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が 継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得 する学習とする。
		介護過程 ・基礎 ・実践、応用	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく 介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。
		介護総合演習 ・介護実習Ⅰ－1，2，3 ・介護実習Ⅱ	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、 専門職としての態度を養う学習とする。
		介護実習 ・基礎①,② ・実践基礎 ・専門実践	(1)地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家 族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学 習とする。 (2)本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程 を実践する能力を養う学習とする。
こころとからだのしくみ	1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や 機能及び発達段階とその課題について理解し、 対象者の生活を支援するという観点から、身体 的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるた めの知識を身につける。 2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという観 点から、医療職と連携し支援を行うための、心 身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的 な知識を身につける。 3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に 及ぼす影響について理解し、本人と家族が地 域で自立した生活を継続するために必要とされ る心理・社会的な支援について基礎的な知識 を身につける。	こころとからだのしくみ ・一般基礎 ・形態別基礎	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間 の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。
		発達と老化の理解	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老 化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支 援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。
		認知症の理解 ・基礎 ・専門	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を 習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみなら ず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な 知識を習得する学習とする。
		障害の理解 ・基礎 ・専門A,B	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を 習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみなら ず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な 知識を習得する学習とする。
医療的ケア	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支 えるという観点から、医療職との連携のもとで医療 的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知 識・技術を習得する。	医療的ケア ・基礎 ・演習	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する 学習とする。

教 育 課 程 表

教育・社会福祉専門課程
介　護　福　祉　学　科（昼間部）

区分		授業科目 科目	授業形態	総授業時間数	修得単位数	必修選択の別	1年 通年	1年 週コマ数	2年 通年	2年 週コマ数
人間と社会	人間の理解	人間の尊厳と自立	講義	30	2	必修	30	1		
		人間関係とコミュニケーション（基礎）	講義	30	2	必修	30	1		
		人間関係とコミュニケーション（応用マネジメント）	講義	30	2	必修			30	1
	社会の理解	社会の理解	講義	60	4	必修	60	2		
	選択科目	実践手話技能	講義・演習	30	2	必修	30	1		
		福祉住環境	講義	30	2	必修	30	1		
		PC・タブレット活用技術（介護福祉編）	演習	30	2	必修	30	1		
		健康プロモEX	講義・演習	30	2	必修	30	1		
	小　計			270	18		240	8	30	1
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ（介護概論）	講義	60	4	必修	60	2		
		介護の基本Ⅱ（連携・協働）	講義	60	4	必修			60	2
		介護の基本Ⅲ（自立支援）	講義・演習	60	4	必修	60	2		
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	講義・演習	60	4	必修	60	2		
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ（基礎・理論A）	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		生活支援技術Ⅱ（基礎・実践A）	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		生活支援技術Ⅲ（基礎・理論B）	講義・演習	30	2	必修	30	1		
		生活支援技術Ⅳ（基礎・実践B）	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		生活支援技術Ⅴ（応用・実践A）	講義・演習	60	4	必修			60	2
		生活支援技術Ⅵ（応用・実践B）	講義・演習	30	2	必修			30	1
	介護過程	介護過程Ⅰ（基礎）	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		介護過程Ⅱ（実践・応用）	講義・演習	90	6	必修			90	3
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ（介護実習Ⅰ－1．2）	講義・演習	60	4	必修	60	2		
		介護総合演習Ⅱ（介護実習Ⅰ－3．Ⅱ）	講義・演習	60	4	必修			60	2
	介護実習	実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－1）（基礎①）	実習	91	3	必修	91			
		実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－2）（基礎②）	実習	91	3	必修	91			
		実習基準Ⅰ（介護実習Ⅰ－3）（基礎実践）	実習	112	3	必修			112	
		実習基準Ⅱ（介護実習Ⅱ）（専門実践）	実習	163	5	必修			163	
	小　計			1267	68		692	17	575	10
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ（一般基礎）	講義	60	4	必修	60	2		
		こころとからだのしくみⅡ（形態別基礎）	講義	60	4	必修	60	2		
	発達と老化の理解	発達と老化の理解	講義	60	4	必修			60	2
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ（基礎）	講義・演習	30	2	必修	30	1		
		認知症の理解Ⅱ（専門）	講義・演習	30	2	必修			30	1
	障害の理解	障害の理解Ⅰ（基礎・専門A）	講義	30	2	必修	30	1		
		障害の理解Ⅱ（専門B）	講義	30	2	必修			30	1
	小　計			300	20		180	6	120	4
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケア（基礎）	講義	60	2	必修			60	2
		医療的ケア（演習）	演習	15	1	必修			15	1
	小　計			75	3				75	3
合　計				1912	109		1112	31	800	18
介護実習を除いた時間数				1455			930		525	

アドミッションポリシー（本校が求める人物像）/学科基本方針

1. アドミッションポリシー（本校が求める人物像）

(1) 本学園の建学の精神と「well-being」の追求に賛同する。

(2)「ありがとう」の言葉を大切に、人と向き合い社会貢献して
いきたいと考える。

(3) 医療・福祉への強い関心と資格取得に対する意欲と
覚悟を持ちコミュニケーション能力を高めようと努力できる。

(4) 目の前の人に寄り添う「いちばんの存在」に向かって
努力ができる。

(5)「地域」のなかで「何ができるか」を「じぶんごと」として
考えることができる介護福祉士を目指す。

2. 学科基本方針

1. 目の前の人に寄り添う「いちばん」の存在になる

2. 介護福祉業界の中核として活躍できる介護福祉士になる

3. 地域福祉に貢献できる介護福祉士になる

4. 後継者育成ができる介護福祉士になる

領域：人間と社会（270時間）

領域の目的

1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職と しての基盤となる倫理観を養う。

2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーシ ョンやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。

3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会におけ る生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。

4. 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策に ついての基礎的な知識を身につける。

5. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性 を養う。

科目名	時間数（時間）
人間の尊厳と自立	30
人間関係とコミュニケーション（基礎）	30
人間関係とコミュニケーション（応用マネジメント）	30
社会の理解	60
情報処理	30
健康プロモーションEX	30
実践手話技能	30
福祉住環境	30

授 業 概 要				
人間の尊厳と自立	授業の種類		授業担当者	実務経験の有無
	講義		馬場 学	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択
15回	30	1年通年		必修

[授業の目的・ねらい]
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。
[授業全体の内容の概要]
介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重および権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通し、その生活を支える必要性を理解する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]
1. 授業を通して、考えることの楽しさを知ることから、多様な価値観を持つことができる柔軟な思考ができるようになる。
2. 人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重および権利擁護が理解できる。
3. 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	人間の尊厳と人権・ 福祉理念 (人間の尊厳と利用者主体1)
2	人間の尊厳と人権・ 福祉理念 (人間の尊厳と利用者主体2)
3	人間の尊厳と人権・ 福祉理念 (人権思想の潮流とその具現化)
4	人間の尊厳と人権・ 福祉理念 (人権や尊厳に関する日本の諸規定1)
5	人間の尊厳と人権・ 福祉理念 (人権や尊厳に関する日本の諸規定2)
6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷1
7	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷2
8	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷3
9	人権尊重と権利擁護
10	人間の尊厳と人権・ 福祉理念(事例演習)
11	自立の概念・あり方(自立の概念・多様性)
12	自立の概念(介護を必要とする人々の自立と自立支援)
13	自立の概念(介護を必要とする人々の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性)
14	自立の概念・あり方(事例演習)
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
●最新・介護福祉士養成講座1(株)中央法規 備考:感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全てをリモート実施する場合があります。	定期試験、課題レポート

授　業　概　要			
人間関係とコミュニケーション（基礎）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	熊崎　正実	無

授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年通年	必修

［授業の目的・ねらい］
介護福祉士が狭い経験や専門性のみに依拠せず、対人援助に必要な人間関係を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。
［授業全体の内容の概要］
自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションを理解する。
人間の心理学的理解から人間関係の心理、人間関係形成のプロセスを概観し、コミュニケーションの構成要素、態様をとらえ、コミュニケーション構造化する。
［授業終了時の達成課題（到達目標）］
1、コミュニケーションの構造を理解し、介護福祉士として活動する場における自己のコミュニケーション課題を見出す。
2、人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	人間らしさのはじまり～主体の構造（意識と無意識）
2	自分と他者の理解（自己覚知・自己開示・ジョハリの窓）
3	「発達」「社会性」からみた人間関係⑴（発達と人間関係）
4	「発達」「社会性」からみた人間関係⑵（社会性発達と人間関係）
5	社会心理学からみた人間関係
6	人間関係とストレス
7	コミュニケーションの構造・手段⑴（基本的構造・機能構造）
8	コミュニケーションの構造・手段⑵（言語・非言語・言語行動機能）
9	対人援助関係とコミュニケーション⑴（関係発達と後退のコミュニケーション）
10	対人援助関係とコミュニケーション⑴（受容・共感・傾聴／バイステックの原則）
11	組織におけるコミュニケーション⑴（4つの条件・特徴）
12	組織におけるコミュニケーション⑵（報連相・集団討議）
13	組織におけるコミュニケーション⑶（ブレーンストーミング）
14	演習問題
15	まとめ

［使用テキスト・参考文献］
●最新・介護福祉士養成講座1（株）中央法規

［単位認定の方法及び基準］
定期試験、出欠席

授　業　概　要			
人間関係とコミュニケーション（応用マネジメント）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	沖田　健太郎	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年　通年	必修

［授業の目的・ねらい］
　介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。
［授業全体の内容の概要］
　ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。
［授業終了時の達成課題（到達目標）］
　介護実践をマネジメントするために人ような組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基礎が理解できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	ヒューマンサービスとしての介護サービス
2	介護現場で求められるチームマネジメント
3	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み
4	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
5	チームでケアを展開するためのマネジメント
6	チームの力を最大化するためのマネジメント
7	介護福祉職のキャリアと求められる実践力
8	介護福祉職としてのキャリアデザイン
9	介護福祉職のキャリア支援・開発
10	自己研鑽に必要な姿勢
11	介護サービスを支える組織の構造
12	介護サービスを支える組織の機能と役割
13	介護サービスを支える組織の管理
14	演習問題
15	まとめ

［使用テキスト・参考文献］
●最新・介護福祉士養成講座1（株）中央法規

［単位認定の方法及び基準］
定期試験、出欠席

授 業 概 要			
社会の理解	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	介護福祉学科教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 1年 通年	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
1. 個や集団、社会の 単位で人間を理解する 視点を養い、生活と社 会の関係性を体系的に 捉える学習とする。

2. 対象者の生活の場 としての地域という観 点から、地域共生社会 や地域包括ケアの基礎 的な知識を習得する学 習とする。

3. 日本の社会保障の 基本的な考え方、しく みについて理解する学 習とする。

4. 高齢者福祉、障害 者福祉及び権利擁護等 の制度・施策について、 介護実践に必要な観点 から、基礎的な知識を 習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]
生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、酒井、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]
① 個人・家族・地域・社会 のしくみと、地域における 生活の構造について学び、 生活と社会の関わりや自 助・互助・共助・公助の展 開について理解する

② 地域共生社会や地域包 括ケアシステムの基本的 な考え方としくみ、その実 現のための制度・施策を理 解する

③ 社会保障制度の基本的 な考え方としくみを理解 するとともに、社会保障の 現状と課題を捉えることができる
④ 高齢者福祉制度の基本 的な考え方としくみ、介護 保険制度の内容を理解し、 高齢者福祉の現状と課題 を捉えることができる

⑤ 障害者福祉制度の基本 的な考え方としくみ、障害 者総合支援法の内容を理 解し、障害者福祉の現状と 課題を捉えることができる

⑥ 人間の尊厳と自立に関 わる権利擁護や個人情報 保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考 え方としくみを理解できる

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新・介護福祉士養成講座2(株)中央法規	定期試験、ミニテスト、課題レポート、出欠席、授業態度

社会の理解　授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	社会と生活のしくみ（生活を幅広くとらえる）
2	社会と生活のしくみ（生活の基本機能）
3	社会と生活のしくみ（ライフスタイルの変化）
4	社会と生活のしくみ（家族の機能と役割）
5	社会と生活のしくみ（社会・組織の機能と役割）
6	社会と生活のしくみ（地域・地域社会）
7	社会と生活のしくみ（地域社会における生活支援）
8	地域共生社会の実現に向けた制度や施策（地域福祉の発展）
9	地域共生社会の実現に向けた制度や施策（地域共生社会）
10	地域共生社会の実現に向けた制度や施策（地域包括ケア）
11	社会保障制度（社会保障の基本的な考え方）
12	社会保障制度（日本の社会保障制度の発達）
13	日社会保障制度（日本の社会保障制度のしくみ ①）
14	社会保障制度（日本の社会保障制度のしくみ ②）
15	社会保障制度（現代社会と社会保障制度）
16	高齢者保健福祉と介護保険制度（高齢者保健福祉の動向）
17	高齢者保健福祉と介護保険制度（高齢者保健福祉に関連する法体系）
18	高齢者保健福祉と介護保険制度（介護保険制度 ①）
19	高齢者保健福祉と介護保険制度（介護保険制度 ②）
20	高齢者保健福祉と介護保険制度（介護保険制度 ③）
21	障害者福祉と障害者保健福祉制度（障害者保健福祉の動向）
22	障害者福祉と障害者保健福祉制度（障害者保健福祉に関連する法体系）
23	障害者福祉と障害者保健福祉制度（障害者総合支援制度 ①）
24	障害者福祉と障害者保健福祉制度（障害者総合支援制度 ②）
25	障害者福祉と障害者保健福祉制度（障害者総合支援制度 ③）
26	介護実践に関連する諸制度（個人の権利を守る制度・施策）
27	介護実践に関連する諸制度（保健医療に関する制度・施策）
28	介護実践に関連する諸制度（貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策）
29	介護実践に関連する諸制度（地域生活を支援する制度・施策）
30	まとめ

授　業　概　要			
実践手話技能	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	福山　浩	有
授業の回数 15回	時間数 30	配当学年・時期 1年通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
　初めて手話を学ぶ人たちのために、基本的な手話のなりたちや日常会話を学んでいく。また、単に手話技術だけに目を奪われるのではなく、ろうあ者の暮らしについても学習を深めていく。

［授業全体の内容の概要］
　日常会話を中心に展開する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）
　手話技能検定5級取得を目指す。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	聴覚障害の基礎知識
2	手話の構成
3	表現してみよう
4	模倣してみよう
5	指文字をおぼえよう
6	手話の基本表現（感情表現）
7	手話の基本表現（人物の表現）
8	手話の基本表現（数・数詞、時の表し方）
9	手話の基本文型（自己紹介をしてみよう）
10	手話の基本文型（可能性・許可を表す文型）
11	手話の基本文型（強調・義務・願望・希望を表す文型）
12	手話の基本文型（未来・推量・仮定を表す文型）
13	手話の基本文型（完了を表す文型）
14	手話の基本文型（言葉や文をつなぐ文型）
15	まとめ

［使用テキスト・参考文献］
●資料適宜配付

［単位認定の方法及び基準］
定期試験

授　業　概　要			
福祉住環境	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	金丸　千尋	有

授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年通年	必修

［授業の目的・ねらい］
介護の基本である“人間”と“生活”について、その本質を理解できるようになる。地域と居住環境を学ぶことにより、地域で暮らし続けることの意義を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］
講義を中心としながら、高齢者・障害者が暮らす居住環境を学ぶことから、安心できる居住環境を考える。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
地域との連携の中で、介護福祉が果たす役割と協働について理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	Ⅰ.居住環境の整備の意義と目的（第2章1節）
2	Ⅰ.安心で快適な生活の場づくり（第2章2節）
3	Ⅱ.福祉住環境整備とケアマネジメント、福祉住環境整備の進め方（第4章1節・2節）
4	Ⅱ.福祉住環境整備関連職への理解と連携、相談援助の実践的な進め方（第4章3節・4節）
5	Ⅱ.福祉住環境整備の共通基本技術（第5章2節）
6	Ⅱ.生活行為別福祉住環境整備の手法（第5章2節）
7	Ⅱ.福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識（第5章補節）
8	Ⅱ.福祉用具の意味と適用（第6章1節）
9	Ⅱ.生活行為別にみた福祉用具の活用（第6章2節）
10	Ⅱ.高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備①A～C（第3章1節）
11	Ⅱ.高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備②D～F（第3章1節）
12	Ⅱ.高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備③G～I（第3章1節）
13	Ⅱ.障害別にみた福祉住環境整備①A、B
14	Ⅱ.障害別にみた福祉住環境整備①C、D，E
15	まとめ　Ⅰ．住まいの管理（第2章2節）

［使用テキスト・参考文献］
●最新・介護福祉士養成講座6（株）中央法規
●福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト（株）社会保険研究所

［単位認定の方法及び基準］
定期試験、演習参加状況、出欠席

授　業　概　要			
PC・タブレット活用技術（介護福祉編）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	高橋裕介・丹羽隆仁 介護福祉学科教員	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年　通年	必修

［授業の目的・ねらい］
介護福祉業界では、メールソフトやWebの検索ソフト、Office系アプリケーション・ソフトウェアの導入が急速に加速しており、端末および周辺機器の使い方も身につける必要がある。また，介護福祉職に求められる文書作成や表の作成など、現場で実践できる技能や知識を習得する。

［授業全体の内容の概要］
　介護福祉士の業務ならびに実践研究におけるデータ活用のため、また現場で必要なPC・タブレットの基本操作を学ぶ。電子メール、Word、Excel、Powerpointを利用し、事務処理能力の向上と各種研究発表場面でのスキルアップ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
　社会で求められる情報セキュリティやコンプライアンス等を身に付けるとともに，コンピュータを用いた文書作成，表計算，プレゼンテーション等の基本操作の習得。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	パソコン室の利用・オペレーティングシステム
2	電子メールの基礎
3	ワープロの基礎　1
4	ワープロの基礎　2
5	職場内・家族へのお知らせ文書作成1
6	職場内・家族へのお知らせ文書作成2
7	タブレット活用技術1
8	タブレット活用技術2
9	介護実習記録とタブレット1
10	介護実習記録タブレット2
11	表計算の基礎（食事等摂取表の作成と活用法）
12	表計算の基礎（排泄チェック表の作成と活用法）
13	プレゼンテーションツールの活用　1
14	プレゼンテーションツールの活用　2
15	抄録の作成方法

［使用テキスト・参考文献］
●資料適宜配布

［単位認定の方法及び基準］
・学則第16条の1、2、3、4、5項を基準とする。
提出物の提出状況及び出席率40%，定期試験60%
上記比率の下、60点以上のものを合格として単位認定

授　業　概　要			
健康プロモEX	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	水野加津人・橋本弘子・伊藤大志 城戸千景・伊藤佳啓	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年通年	必修

［授業の目的・ねらい］

身体、姿勢の考え方、姿勢が与える影響を科学的に理解し、根拠あるエクササイズを介護現場で指導できることを目的とする。また、健康増進、認知症予防について、積極的に行動できる介護福祉士を目指す。

［授業全体の内容の概要］

1. ファンクション・メソッドの理論と指導方法を理解する。
2. 健康プロモEXの各メニュー・指導方法を修得する。

［授業終了時の達成課題］

1. ファンクション・メソッドの理論を理解し、正しく演習が行える。
2. ファンクション・メソッドの理論を理解し、正しく指導が行える。
3. 健康プロモーションの全メニューを修得する。
4. 健康プロモーションの全メニューを正しく実践することができる。
5. 人の身体の仕組みと健康維持、増進のメカニズムを知る。
6. 利用者に対し、健康プロモーションを正しく実践することができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	ファンクション・メソッド:ファンクション・メソッドとは
2	ファンクション・メソッド:ファンクション・メソッドの理論
3	ファンクション・メソッド:ファンクション・メソッドの指導方法
4	健康プロモーション:健康プロモーションのメニューの修得
5	健康プロモーション:健康プロモーションの各メニューの演習
6	健康プロモーション:健康プロモーションの指導方法
7	身体機能の維持・改善のメカニズム
8	健康プロモ　指導のポイント
9	健康プロモ（演習）各メニューの実践①
10	健康プロモ（演習）各メニューの実践②
11	総合演習①
12	総合演習②
13	総合演習③
14	総合演習④
15	総合演習とまとめ　健康増進運動・認知症予防・総括

［使用テキスト］	［評価の方法および基準］
授業時に配布するオリジナルの資料（紙媒体及び動画）	演習について評価し、60点以上を合格とする。 （60点未満の者はレポート提出又は再度演習を行う）

領域：介護　（1,260時間）

領域の目的

１．介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。

２．介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・ 技術を習得する。

３．本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーショ ンの基礎的な知識・技術を習得する。

４．対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程 を展開できる能力を養う。

５．介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。

６．各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力 を養う。

科目名	時間数（時間）
介護の基本Ⅰ（介護概論）	60
介護の基本Ⅱ（連携・協働）	60
介護の基本Ⅲ（自立支援）	60
コミュニケーション技術	60
生活支援技術Ⅰ（基礎・理論A）	60
生活支援技術Ⅱ（基礎・実践A）	60
生活支援技術Ⅲ（基礎・理論B）	30
生活支援技術Ⅳ（基礎・実践B）	60
生活支援技術Ⅴ（応用・実践A）	60
生活支援技術Ⅴ（応用・実践B）	30
介護過程Ⅰ（基礎）	60
介護過程Ⅱ（実践・応用）	60
介護総合演習Ⅰ（介護実習Ⅰ－１．２）	60
介護総合演習Ⅱ（介護実習Ⅰ－３．Ⅱ）	60
介護実習Ⅰ－１（基礎①）	91
介護実習Ⅰ－２（基礎②）	91
介護実習Ⅰ－３（基礎実践）	112
介護実習Ⅱ（専門実践）	163

授　業　概　要			
介護の基本Ⅰ （介護概論）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	飛田いく子・西川悠太 介護科教員	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60	1年通年	必修

［授業の目的・ねらい］
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。
介護の対象である「人間」と「生活」について、その本質を見つめ、考察できるようになることで、介護福祉士の役割と機能を理解する。

［授業全体の内容の概要］
介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を倫理的に学ぶ。

介護、福祉分野の範疇にとどまらず、「人間が生きて生活する」という基本的な意味と仕組みを理解し、人間・社会・健康など包括的、総体的に捉えることができるように幅広い知識と解釈を提供する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
① 複雑化・多様化・高度化 する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社 会的な課題として捉え、尊 厳の保持や自 立支援とい う介護福祉の基本となる 理念を理解する
② 地域や施設・在宅の場 や、介護予防や看取り、災 害時等の場面や状況にお ける、介護福祉士の役割と 機能を理解する
③ 介護福祉の専門性と倫 理を理解し、介護福祉士に 求められる専門職として の態度を形成するための 内容とする。

・介護・福祉の理念に基づいた介護実践ができる。
・対象の個別性を理解し、自立生活への課題を的確に捉え、安全に支援できる。
・介護福祉士としての心構えを身につける。
・介護福祉の基本原則を理解し日常の生活支援に具体的に応用することができる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座3、4（株）中央法規 ●福祉小六法2022年版（株）みらい ●介護福祉用語辞典 7訂（株）中央法規 ●国民の福祉と介護の動向2021/2022（一財）厚生労働統計協会	定期試験、　課題レポート

介護の基本Ⅰ（介護概論）　授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	介護福祉の基本となる理念（介護福祉とは／介護の成り立ち①）
2	介護福祉の基本となる理念（介護福祉とは／介護の成り立ち②）
3	介護福祉の基本となる理念（介護福祉とは／介護の成り立ち③）演習
4	介護の概念の変遷1970年代
5	介護の概念の変遷1980年代
6	介護の概念の変遷1990年代
7	介護の概念の変遷2000年代
8	介護福祉の基本理念
9	介護福祉士の役割と機能（活躍の場と機能／社会福祉士法及び介護福祉士法・介護福祉士を支える団体）
10	介護福祉士の役割と機能（活躍の場と機能／地域包括ケアシステム・介護予防・医療的ケア）
11	介護福祉士の役割と機能（人生の最終段階の支援）
12	介護福祉士の役割と機能（災害時の支援）
13	介護福祉士の倫理（介護実践における倫理・介護福祉士の対応）
14	介護福祉士の倫理（日本介護福祉士会の倫理綱領）
15	介護福祉士の倫理（演習）
16	自立に向けた介護（自立支援の考え方・介護福祉における自立支援の意義）
17	自立に向けた介護（ICFの考え方①）
18	自立に向けた介護（ICFの考え方②）
19	自立に向けた介護（自立支援とリハビリテーション／リハビリテーションとは）
20	自立に向けた介護（リハビリテーションの実際）
21	自立に向けた介護（リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価）
22	自立に向けた介護（リハビリテーションにおける自立・介護福祉士の役割）
23	自立に向けた介護（自立支援と介護予防／介護予防の概要）
24	自立に向けた介護（介護予防の種類と特徴・高齢者の身体特性と介護予防）
25	自立に向けた介護（介護予防の実際）
26	自立に向けた介護（自立支援と介護予防・介護福祉士の役割）
27	自立に向けた介護（演習）
28	生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス①
29	生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス②
30	まとめ

授　業　概　要				
介護の基本Ⅱ （連携・協働）	授業の種類		授業担当者	実務経験の有無
	講義		飛田いく子・野田裕史 ・介護科教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 2年通年		必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。
介護における日常生活支援の基本を理解し、介護実践の基本原則と方法を習得し、利用者主体の生活支援の能力を培う。

［授業全体の内容の概要］
介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を倫理的に学ぶ。

介護福祉の基盤となる生活の支援において、「生きがいのある生活」とは何かを理解し、その生活の経営と管理について考え、対象並びに介護者の安全に配慮した介護実践の方法を習得する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

①ICFの視点に基づく アセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立 を支援するための環境整 備や介護予防、リハビリテ ーション等の意義や方法 を理解する内容とする。
②介護を必要とする人の 生活の個別性に対応する ために、生活の多様性や社会との関わりを理解する内容とする。
③介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する内容とする。

・介護・福祉の理念に基づいた介護実践ができる。
・対象の個別性を理解し、自立生活への課題を的確に捉え、安全に支援できる。
・介護福祉士としての心構えを身につける。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座3、4（株）中央法規 ●福祉小六法2022年版（株）みらい ●介護福祉用語辞典 7訂（株）中央法規 ●国民の福祉と介護の動向2021/2022（一財）厚生労働統計協会	定期試験、　課題レポート

介護の基本Ⅱ（連携・協働） 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	介護を必要とする人の理解（ 私たちの生活の理解・介護を必要とする人たちの暮らし）
2	介護を必要とする人の理解（ その人らしさと生活ニーズの理解・生活のしずらさの理解と支援）
3	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ（生活を支えるフォーマル、インフォーマルサービス）
4	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ（地域連携）
5	協働する多職種の役割と機能（多職種連携・協働の必要性）
6	協働する多職種の役割と機能（多職種連携・協働に求められる基本的な能力）
7	協働する多職種の役割と機能（保健・医療・福祉職の役割と機能）
8	介護における安全の確保とリスクマネジメント（介護における安全の確保）
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント（リスクマネジメントとは何か）
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント（感染症対策）
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント（薬剤の取り扱いに関する基礎知識と連携）
12	介護従事者の安全（健康管理の意義と目的）
13	介護従事者の安全（こころの健康管理）
14	介護従事者の安全（身体の健康管理）
15	介護従事者の安全（労働基準法と労働安全衛生法）
16	介護従事者の安全（労働環境の整備）
17	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（老人福祉法の制定と改正の経緯）
18	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（介護保険制度創設のねらいと制度の概要）
19	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（介護保険制度の保険給付の種類と法の改正の概要）
20	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（老人保健法の事業概要と医療及び特定療養費）
21	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（老人保健法の事業概要と医療及び特定療養費）
22	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（学外授業／地域行事参加①）
23	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（学外授業／地域行事参加②）
24	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（学外授業／地域行事参加③）
25	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（学外授業／地域行事参加④）
26	在宅福祉サービスの目的や内容の理解①
27	在宅福祉サービスの目的や内容の理解①
28	生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス③
29	生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス④
30	振り返り、まとめ

授 業 概 要				
介護の基本Ⅲ （自立支援）	授業の種類		授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習		濵島光宏・福山浩・ 介護科教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 1年通年		必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。
介護の対象である「人間」と「生活」について、その本質を見つめ、考察できるようになることで、介護福祉士の役割と機能を理解する。

［授業全体の内容の概要］
介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を倫理的に学ぶ。

介護、福祉分野の範疇にとどまらず、「人間が生きて生活する」という基本的な意味と仕組みを理解し、人間・社会・健康など包括的、総体的に捉えることができるように幅広い知識と解釈を提供する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
① 複雑化・多様化・高度化 する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社 会的な課題として捉え、尊 厳の保持や自 立支援とい う介護福祉の基本となる 理念を理解する
② 地域や施設・在宅の場 や、介護予防や看取り、災 害時等の場面や状況にお ける、介護福祉士の役割と 機能を理解する
③ 介護福祉の専門性と倫 理を理解し、介護福祉士に 求められる専門職として の態度を形成するための 内容とする。

・介護・福祉の理念に基づいた介護実践ができる。
・対象の個別性を理解し、自立生活への課題を的確に捉え、安全に支援できる。
・介護福祉士としての心構えを身につける。
・介護福祉の基本原則を理解し日常の生活支援に具体的に応用することができる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座3、4（株）中央法規●高齢障害者のためのグループレクリエーション楽しいゲーム204(公財）日本レクリエーション協会	定期試験、 課題レポート

介護の基本Ⅲ（自立支援） 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	自立に向けた介護／生活意欲と活動（レクリエーションの基本的理解）
2	自立に向けた介護／生活意欲と活動（介護レクリエーション支援：グループレクリエーション①）
3	自立に向けた介護／生活意欲と活動（介護レクリエーション支援：グループレクリエーション②）
4	自立に向けた介護／生活意欲と活動（介護レクリエーション支援：グループレクリエーション③）
5	自立に向けた介護／生活意欲と活動（介護レクリエーション支援：グループレクリエーション④）
6	自立に向けた介護／生活意欲と活動（介護レクリエーション支援：グループレクリエーション⑤）
7	自立に向けた介護／生活意欲と活動（介護レクリエーション支援：個別レクリエーション①）
8	自立に向けた介護／生活意欲と活動（介護レクリエーション支援：個別グループレクリエーション②）
9	グループレクリエーション発表
10	個別レクリエーション発表
11	自立に向けた介護／生活意欲と活動（音楽療法①）
12	自立に向けた介護／生活意欲と活動（音楽療法②）
13	自立に向けた介護／生活意欲と活動（音楽療法③）
14	自立に向けた介護／生活意欲と活動（音楽療法④）
15	自立に向けた介護／生活意欲と活動（音楽療法⑤）
16	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（リハビリテーションと介護予防①）
17	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（リハビリテーションと介護予防②）
18	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（生活を通したリハビリテーション①）
19	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（生活を通したリハビリテーション②）
20	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（生活を通したリハビリテーション③）
21	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（介護保険におけるリハビリテーション）
22	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（脳卒中におけるリハビリテーション）
23	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（整形外科のリハビリテーション）
24	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（内科疾患におけるリハビリテーション）
25	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（脊髄損傷におけるリハビリテーション）
26	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（特定疾患のリハビリテーション）
27	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（発達障害に対するリハビリテーション）
28	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（ADLを支援する機器）
29	自立に向けた介護／自立支援と生活支援（訪問リハビリテーション）
30	まとめ

授 業 概 要			
コミュニケーション技術	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	野村 敬子	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60	1年 通年	必修

[授業の目的・ねらい]
対象者との支援関係の 構築やチームケアを実践 するためのコミュニケー ションの意義や技法を学 び、介護実践に必要なコ ミュニケーション能力を 養う

[授業全体の内容の概要]
1. 人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのより良い関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。
2. 介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本的知識・技術を習得する。
[授業終了時の達成課題(到達目標)]
①本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーション の基本的な技術を習得する内容とする。
②家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシッ プを構築するためのコミ ュニケーションの基本的 な技術を習得する内容とする。
③障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容 とする。
④情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する内容とする。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
●最新・介護福祉士養成講座5(株)中央法規	定期試験、レポート課題、授業態度

コミュニケーション技術　授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	介護を必要とする人とのコミュニケーション（介護におけるコミュニケーションの意義・目的）
2	介護を必要とする人とのコミュニケーション（コミュニケーションの基本）
3	介護を必要とする人とのコミュニケーション（介護技術とコミュニケーション）
4	介護を必要とする人とのコミュニケーション（言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本）
5	介護を必要とする人とのコミュニケーション（利用者の話を聴く技法・感情表現を察する技法）
6	介護を必要とする人とのコミュニケーション（利用者の納得と同意を得る技法）
7	介護を必要とする人とのコミュニケーション（質問の技法・相談・援助・指導の技法）
8	介護を必要とする人とのコミュニケーション（利用者の意欲を引き出す技法）
9	介護を必要とする人とのコミュニケーション（複数の利用者がいる場面でのコミュニケーション技法）
10	介護における家族とのコミュニケーション（利用者・家族との信頼関係の形成）
11	介護における家族とのコミュニケーション（利用者と家族の意向を調整する技法）
12	障害の特性に応じたコミュニケーション（コミュニケーション障害とその原因）
13	障害の特性に応じたコミュニケーション（利用者の特性に応じたコミュニケーション）
14	障害の特性に応じたコミュニケーション（高次脳機能障害のある人）
15	障害の特性に応じたコミュニケーション（失語症・構音障害のある人）
16	障害の特性に応じたコミュニケーション（認知症・若年認知症のある人）
17	障害の特性に応じたコミュニケーション（視覚・聴覚に障害がある人）
18	障害の特性に応じたコミュニケーション（知的障害・精神障害のある人）
19	介護におけるチームワークのコミュニケーション（チームのコミュニケーションとは・意義・目的）
20	介護におけるチームワークのコミュニケーション（チームコミュニケーションの方法）
21	介護におけるチームワークのコミュニケーション（報告・連絡・相談の意義と目的、留意点）
22	介護におけるチームワークのコミュニケーション（記録の意義と目的・記録の種類）
23	介護におけるチームワークのコミュニケーション（記録の書き方の留意点）
24	介護におけるチームワークのコミュニケーション（記録の活用）
25	介護におけるチームワークのコミュニケーション（会議・議事進行・説明の技術①）
26	介護におけるチームワークのコミュニケーション（会議・議事進行・説明の技術②）
27	介護におけるチームワークのコミュニケーション（事例検討に関する技術①）
28	介護におけるチームワークのコミュニケーション（事例検討に関する技術①）
29	介護におけるチームワークのコミュニケーション（情報の保護と管理①）
30	介護におけるチームワークのコミュニケーション（情報の保護と管理②）

授　業　概　要				
生活支援技術Ⅰ （基礎・理論A）	授業の種類		授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習		介護福祉学科教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 1年通年		必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。

［授業全体の内容の概要］
生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴、清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠について学習し人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
①生活の意味と意義を修得する。
② 健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解できる。
③ボディメカニクスの原理を十分に理解し、それぞれの利用者の身体の状況に応じた移動援助方法が理解できる。
④身支度の意義、その人らしい自己表現から社会性の回復への援助方法が理解できる。
⑤嚥下のメカニズムを知り、より安全に楽しく食事ができるように利用者に適した食事援助の方法について理解できる。
⑥身体各部の清潔が身体や精神に及ぼす影響を知り、利用者の状態に合わせた清潔援助について理解できる。
⑦排泄のメカニズムを理解し、排泄障害のある利用者の方の状況に合わせた排泄介助方法が理解できる。
⑧終末期における尊厳を持った人としてかかわる介護の知識・技術をが理解できる。
⑩生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識が理解できる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座6、7、8（株）中央法規	定期試験、　課題レポート

生活支援技術Ⅰ（基礎・実践A） 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	生活支援の理解　1
2	生活支援の理解　2
3	生活支援の理解　3
4	休息・睡眠の介護　1
5	休息・睡眠の介護　2
6	休息・睡眠の介護　3
7	自立に向けた移動の介護 1
8	自立に向けた移動の介護 2
9	自立に向けた移動の介護 3
10	自立に向けた身じたくの介護 1
11	自立に向けた身じたくの介護 2
12	自立に向けた身じたくの介護 3
13	自立に向けた食事の介護 1
14	自立に向けた食事の介護 2
15	自立に向けた食事の介護 3
16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 1
17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 2
18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 3
19	自立に向けた排泄の介護 1
20	自立に向けた排泄の介護 2
21	自立に向けた排泄の介護 3
22	人生の最終段階における介護 1
23	人生の最終段階における介護 2
24	人生の最終段階における介護 3
25	自立に向けた居住環境の整備　1
26	自立に向けた居住環境の整備　2
27	福祉用具の意義と活用　1
28	福祉用具の意義と活用　2
29	復習とまとめ
30	復習とまとめ

授　業　概　要			
生活支援技術Ⅱ （基礎・実践A）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	介護福祉学科教員	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60	1年通年	必修

［授業の目的・ねらい］
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。

［授業全体の内容の概要］
生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴、清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・ 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。
・睡眠支援に必要なアセスメント視点を理解し、身体状況や価値観に合った具体的な援助方法を身に付けることができる
・身じたくの意義を理解し、身体状況や価値観に合った生活習慣や身じたくの具体的な援助方法を身に付けることができる
・入浴・清潔保持の意義やアセスメント視点を理解し、身体状況に適した介護の清潔援助方法を選択することができ、安全でプライバシーの保護に配慮した清潔の介助ができる。
・自立に向けた排泄の介護に必要なアセスメントの視点を理解し、身体状況に合わせた介助方法を選択し、尊厳に配慮した介助ができる。
・自立に向けた移動・移乗の介護に必要なアセスメントの視点を理解し、疾患・障害など、身体状況に合わせた介助方法を選択し、尊厳に配慮した介助ができる。
・終末期介護における必要なアセスメントの視点を理解し、尊厳を持った人としてかかわる介護の知識・技術を身につける事ができる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座6、7、8（株）中央法規	定期試験、　課題レポート

生活支援技術Ⅵ（基礎・実践A） 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	休息・睡眠の基本となる知識と技術 1
2	休息・睡眠の基本となる知識と技術 2
3	休息・睡眠の基本となる知識と技術 3
4	休息・睡眠の基本となる知識と技術 4
5	移動の基本となる知識と技術 1
6	移動の基本となる知識と技術 1
7	移動の基本となる知識と技術 2
8	移動の基本となる知識と技術 2
9	移動の基本となる知識と技術 3
10	移動の基本となる知識と技術 3
11	移動の基本となる知識と技術 4
12	移動の基本となる知識と技術 4
13	身じたくの基本となる知識と技術 1
14	身じたくの基本となる知識と技術 1
15	身じたくの基本となる知識と技術 2
16	身じたくの基本となる知識と技術 2
17	入浴・清潔保持の基本となる知識と技術 1
18	入浴・清潔保持の基本となる知識と技術 2
19	入浴・清潔保持の基本となる知識と技術 3
20	入浴・清潔保持の基本となる知識と技術 4
21	排泄の基本となる知識と技術 1
22	排泄の基本となる知識と技術 2
23	排泄の基本となる知識と技術 3
24	排泄の基本となる知識と技術 4
25	食事の基本となる知識と技術 1
26	食事の基本となる知識と技術 2
27	食事の基本となる知識と技術 3
28	食事の基本となる知識と技術 4
29	復習とまとめ
30	復習とまとめ

授　業　概　要				
生活支援技術Ⅲ （基礎・理論B）	授業の種類		授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習		後藤珠梨	有
授業の回数 15回	時間数 30	配当学年・時期 1年通年		必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。

［授業全体の内容の概要］
・生活とはどのように構成されているかを知ることから、衣食住全般にわたり基礎的な理解ができるようにする。
・講義を中心として、演習に結びつく基礎学習を生活全般にわたり学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

生活の意味と意義を理解し、生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得できるようにする。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座6、7、8（株）中央法規 ●生活学Navi資料+成分表2022（株）実教出版	定期試験、　課題レポート

生活支援技術Ⅵ（基礎・実践A） 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	自立に向けた家事の介護
2	家事の意義と目的
3	家事に関する基礎知識
4	家事の介護の基本
5	家事に関するアセスメントと目標設定
6	家事に参加することを支える介護　1
7	家事に参加することを支える介護　2
8	家事に参加することを支える介護　3
9	家事に参加することを支える介護　4
10	家事に参加することを支える介護　5
11	家事に参加することを支える介護　6
12	家事に参加することを支える介護　7
13	家事の介助の方法
14	他の職種の役割と協働
15	まとめ

授　業　概　要				
生活支援技術Ⅳ （基礎・実践B）	授業の種類		授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習		後藤珠梨・介護科教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 1年通年		必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］

・介護の基本である“人間”と“生活”について、その本質を理解できるようになる。
・衣生活がどのように行われているかを学ぶことから、QOL向上を目指す意義を学ぶ。
・栄養に関する基礎知識を学び、基本的な調理方法を学ぶ。包丁の持ち方からはじまり、食材の扱い方、切り方、食事の嚥下困難な方への食材の工夫を実習を通して学ぶ。自立にむけた食事の介護への視点を養う。
・生活の基盤となる地域について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］
・衣服管理、調理の基本的技術を学ぶことから、支援を必要とする人への援助方法を修得する。
・グループワークを通じ、利用者の暮らす地域の特色について理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・基本的な手縫いの技術修得、簡単な作品を作成することで、衣生活で介護福祉士が果たす役割を理解する。
・利用者の障害に合わせた食材の準備、調理が実践できる。
・自立に向けた食事の介護に必要なアセスメント視点を理解し、個々の身体状況や習慣に合った食事への配慮を理解し、個別性に応じた技術を修得する。
・地域の特産物や特色、伝統文化などを理解し、利用者の生活支援に繋がる知識を修得する。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座6、7、8（株）中央法規	定期試験、　課題レポート

生活支援技術Ⅵ（基礎・実践A） 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	家事に関する基礎知識 １（衣生活）
2	家事に関する基礎知識 ２（衣生活）
3	家事に関するアセスメントと目標設定 １（衣生活）
4	自立に向けた衣類工夫 １
5	自立に向けた衣類工夫 ２
6	家事支援の基本となる知識と技術 １（衣服）
7	家事支援の基本となる知識と技術 ２（衣服）
8	家事支援の基本となる知識と技術 ３（衣服）
9	家事支援の基本となる知識と技術 ４（衣服）
10	家事支援の基本となる知識と技術 ５（衣服）
11	家事支援の基本となる知識と技術 ６（衣服）
12	家事支援の基本となる知識と技術 ７（衣服）
13	家事支援の基本となる知識と技術 ８（衣服）
14	家事支援の基本となる知識と技術 ９（調理）
15	家事支援の基本となる知識と技術 10（調理）
16	家事支援の基本となる知識と技術 11（調理）
17	家事支援の基本となる知識と技術 12（調理）
18	家事支援の基本となる知識と技術 13（調理）
19	家事支援の基本となる知識と技術 14（調理）
20	家事支援の基本となる知識と技術 15（調理）
21	家事支援の基本となる知識と技術 16（調理）
22	家事支援の基本となる知識と技術 17（調理）
23	家事支援の基本となる知識と技術 18（調理）
24	家事支援の基本となる知識と技術 19（地域の特色）
25	家事支援の基本となる知識と技術 20（地域の特色）
26	家事支援の基本となる知識と技術 21（地域の特色）
27	家事支援の基本となる知識と技術 22（地域の特色）
28	家事支援の基本となる知識と技術 23（地域の特色）
29	家事支援の基本となる知識と技術 24（地域の特色）
30	復習・まとめ

授　業　概　要			
生活支援技Ⅴ (応用・実践A)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	介護福祉学科教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 2年通年	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、利用者の心身状況を適切に捉え、自立に向けた根拠に基づいた介助の技法について、利用者と介護者の視点から考え、効果的な介護技法を習得する。

[授業全体の内容の概要]
その人らしい主体的な生活の支援について考察する能力を身につけ、根拠に基づいた介護実践を行うための知識、技術を学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]
・今まで学んだ知識を基に尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践が考えられる。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
●最新・介護福祉士養成講座6、7、8(株)中央法規	定期試験、　課題レポート

生活支援技術（連携・協働）　授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容･備考
1	対象者に応じた介護（移動･移乗 1）
2	対象者に応じた介護（移動･移乗 2）
3	対象者に応じた介護（移動･移乗 3）
4	対象者に応じた介護（移動･移乗 4）
5	対象者に応じた介護（移動･移乗 5）
6	対象者に応じた介護（身じたく 1）
7	対象者に応じた介護（身じたく 2）
8	対象者に応じた介護（食事 1）
9	対象者に応じた介護（食事 2）
10	対象者に応じた介護（食事 3）
11	対象者に応じた介護（清潔保持 1）
12	対象者に応じた介護（清潔保持 2）
13	対象者に応じた介護（排泄 1）
14	対象者に応じた介護（排泄 2）
15	対象者に応じた介護（排泄 3）
16	対象者に応じた介護（排泄 4）
17	対象者に応じた介護（睡眠 1）
18	対象者に応じた介護（睡眠 2）
19	対象者に応じた介護（終末期 1）
20	対象者に応じた介護（終末期 2）
21	対象者に応じた介護（終末期 3）
22	対象者に応じた介護（終末期 4）
23	疾患に応じた介護
24	疾患に応じた介護
25	疾患に応じた介護
26	疾患に応じた介護
27	疾患に応じた介護
28	疾患に応じた介護
29	振り返り、まとめ
30	振り返り、まとめ

授　業　概　要			
生活支援技術Ⅵ （応用・実践B）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	介護福祉学科教員	有
授業の回数 15回	時間数 30	配当学年・時期 2年通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
利用者の心身状況を理解し、自立に向けた根拠に基づいた介助の技法について、利用者と介護者の視点から考え、効果的な介護技法を習得する。

［授業全体の内容の概要］
・様々な事例において、必要な情報から利用者像を理解し、利用者の特性や身体状況に応じた介護技術を実践する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・今まで学んだ知識を基に尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践が考えられる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座6、7、8（株）中央法規	定期試験、　課題レポート

生活支援技術Ⅵ（応用・実践B） 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	事例検討①
2	事例検討①
3	事例の実践
4	事例の実践・発表・振り返り
5	事例の実践・発表・振り返り
6	事例検討②
7	事例検討②
8	事例の実践
9	事例の実践・発表・振り返り
10	事例の実践・発表・振り返り
11	事例検討③
12	事例検討③
13	事例の実践
14	事例の実践・発表・振り返り
15	事例の実践・発表・振り返り

授　業　概　要			
介護過程Ⅰ （基礎）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	介護福祉学科専任教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 1年　通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
　本人の望む生活の実現 に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。

［授業全体の内容の概要］
　介護過程の意義・目的および介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチについての基礎を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座9（株）中央法規	定期試験、出欠席および平常点、提出物を総合して評価

介護過程Ⅰ　授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	介護過程の意義と基礎的理解（介護過程とは／介護過程の意義・目的①）
2	介護過程の意義と基礎的理解（介護過程とは／介護過程の意義・目的②）
3	介護過程の意義と基礎的理解（生活支援における介護過程の必要性①）
4	介護過程の意義と基礎的理解（生活支援における介護過程の必要性②）
5	介護過程の意義と基礎的理解（介護過程とICF①）
6	介護過程の意義と基礎的理解（介護過程とICF②）
7	介護過程の意義と基礎的理解（アセスメント演習①）
8	介護過程の意義と基礎的理解（アセスメント演習②）
9	介護過程の意義と基礎的理解（情報収集①）
10	介護過程の意義と基礎的理解（情報収集②）
11	介護過程の意義と基礎的理解（情報の解釈・関連づけ・統合化①）
12	介護過程の意義と基礎的理解（情報の解釈・関連づけ・統合化②）
13	介護過程の意義と基礎的理解（情報の解釈・関連づけ・統合化③）
14	介護過程の意義と基礎的理解（生活課題の明確化①）
15	介護過程の意義と基礎的理解（生活課題の明確化②）
16	介護過程の意義と基礎的理解（介護計画の立案①）
17	介護過程の意義と基礎的理解（介護計画の立案②）
18	介護過程の意義と基礎的理解（介護計画の立案③）
19	介護過程の意義と基礎的理解（介護計画の立案④）
20	介護過程の意義と基礎的理解（介護計画の立案⑤）
21	介護過程の意義と基礎的理解（介護の実施①）
22	介護過程の意義と基礎的理解（介護の実施②）
23	介護過程の意義と基礎的理解（介護の実施③）
24	介護過程の意義と基礎的理解（介護の実施④）
25	介護過程の意義と基礎的理解（介護の実施⑤）
26	介護過程の意義と基礎的理解（評価①）
27	介護過程の意義と基礎的理解（評価②）
28	介護過程の意義と基礎的理解（評価③）
29	介護過程の意義と基礎的理解（評価④）
30	介護過程の意義と基礎的理解（評価⑤）

授　業　概　要			
介護過程Ⅱ （実践・応用）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	介護福祉学科専任教員	有
授業の回数 45回	時間数 90	配当学年・時期 2年　通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
　本人の望む生活の実現 に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。
［授業全体の内容の概要］
　介護過程の意義・目的および介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチを基盤に、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程の実践的展開を学ぶ。
また、事例研究を通して根拠に基づく実践が展開できる内容とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
　個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。
　根拠を示し、個別の事例を発表できる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座9（株）中央法規	定期試験、出欠席および平常点、提出物を総合して評価

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護過程の意義と基礎的理解（振り返り）		
2	介護過程とチームアプローチ（カンファレンスの意義・目的）		
3	介護過程とチームアプローチ（カンファレンスの実践）		
4	事例演習　介護過程とチームアプローチ（ケースカンファレンス①）		
5	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案①－1）		
6	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案①－2）		
7	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案①－3）		
8	事例演習　介護過程とチームアプローチ（ケースカンファレンス②）		
9	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案②－1）		
10	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案②－2）		
11	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案②－3）		
12	事例演習　介護過程とチームアプローチ（ケースカンファレンス③）		
13	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案③－1）		
14	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案③－2）		
15	事例演習　介護過程とチームアプローチ（アセスメント・介護計画の立案③－3）		
16	事例検討　介護過程の展開の理解（アセスメント・介護計画の立案①－1）		
17	事例検討　介護過程の展開の理解（アセスメント・介護計画の立案①－2）		
18	事例検討　介護過程の展開の理解（アセスメント・介護計画の立案②－1）		
19	事例検討　介護過程の展開の理解（アセスメント・介護計画の立案②－2）		
20	事例検討　介護過程の展開の理解（アセスメント・介護計画の立案③－1）		
21	事例検討　介護過程の展開の理解（アセスメント・介護計画の立案③－2）		
22	事例検討　介護過程の展開の理解（アセスメント・介護計画の立案④－1）		
23	事例検討　介護過程の展開の理解（アセスメント・介護計画の立案④－2）		
24	介護過程の展開の理解（事例研究①）		
25	介護過程の展開の理解（事例研究②）		
26	介護過程の展開の理解（事例研究③）	36	介護過程の展開の理解（事例研究⑨）
27	介護過程の展開の理解（事例研究④）	37	介護過程の展開の理解（事例研究⑩）
28	介護過程の展開の理解（事例研究⑤）	38	介護過程の展開の理解（事例研究⑪）
29	介護過程の展開の理解（事例研究⑥）	39	介護過程の展開の理解（事例研究⑫）
30	介護過程の展開の理解（実施・評価①）	40	介護過程の展開の理解（事例研究⑬）
31	介護過程の展開の理解（実施・評価②）	41	介護過程の展開の理解（事例研究⑭）
32	介護過程の展開の理解（実施・評価③）	42	介護過程の展開の理解（事例研究⑮）
33	介護過程の展開の理解（実施・評価④）	43	介護過程の展開の理解（事例研究発表①）
34	介護過程の展開の理解（事例研究⑦）	44	介護過程の展開の理解（事例研究発表②）
35	介護過程の展開の理解（事例研究⑧）	45	介護過程の展開の理解（事例研究発表③）

授　業　概　要			
介護総合演習Ⅰ （介護実習Ⅰ－1．2）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	介護福祉学科専任教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 1年通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
介護実習全体の流れを理解し、実習に必要な知識と技術を身につける。通所施設で支援を受けながら地域で生活をしている高齢者の理解を深める。介護実践に必要な知識 と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養 う

［授業全体の内容の概要］
各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合 し、介護実践につなげることができる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座10（株）中央法規	小テスト、授業態度、出欠席、課題レポート

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	知識と技術の統合（介護総合演習の位置づけ、目的）
2	知識と技術の統合（介護実習の意義、目的）
3	介護実習の種類・実習前の学びと、実習後の学びのいかし方
4	介護実習前、介護実習中、介護実習後の学習の内容と方法
5	実習先の特徴、実習先での学び（居宅系サービス）
6	実習先の特徴、実習先での学び（介護保険施設・障害者支援施設）
7	実習先の特徴、実習先での学び（地域密着型サービス）
8	介護実習Ⅰ-1について①
9	介護実習Ⅰ-1について②
10	介護実習Ⅰ-1について③
11	実習Ⅰ－1ガイダンス
12	実習関連書類について①
13	実習関連書類について②
14	実習関連書類について③
15	実習目標・実習生個人表作成①
16	実習目標・実習生個人表作成②
17	個人情報の取り扱いについて
18	感染症予防・健康管理
19	実習計画・実習日誌
20	実習におけるスーパービジョン
21	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成①）
22	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成②）
23	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成③）
24	介護実習Ⅰ－1　実習報告会①
25	介護実習Ⅰ－1　実習報告会②
26	介護実習Ⅰ－1　実習報告会③
27	実習先の理解（介護老人福祉施設・介護老人保健施設）
28	介護実習Ⅰ－2ガイダンス
29	実習目標・実習生個人表作成①
30	実習目標・実習生個人表作成②

授 業 概 要			
介護総合演習Ⅱ （介護実習Ⅰ－3. Ⅱ）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・演習	介護福祉学科専任教員	有
授業の回数 30回	時間数 60	配当学年・時期 2年通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
介護実習全体の流れを理解し、実習に必要な知識と技術を身につける。通所施設で支援を受けながら地域で生活をしている高齢者の理解を深める。介護実践に必要な知識 と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養 う

［授業全体の内容の概要］
各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
実習の教育効果を上 げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合 し、介護実践につなげることができる。
実習を振り返り、介 護の知識や技術を実践と 結びつけて統合、深化さ せるとともに、自己の課題を明確にし専門職とし ての態度を養う。
質の高い介護実践やエ ビデンスの構築につなが る実践研究の意義とその方法が理解できる。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座10（株）中央法規	小テスト、授業態度、出欠席、課題レポート

介護総合演習Ⅱ　授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法	
回	内容・備考
1	実習関連書類について①
2	実習関連書類について②
3	実習関連書類について③
4	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成①）
5	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成②）
6	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成③）
7	介護実習Ⅰ－２　実習報告会①
8	介護実習Ⅰ－２　実習報告会②
9	介護実習Ⅰ－２　実習報告会③
10	実習Ⅱのねらいと実習モデル・実習モデル・介護過程を展開する介護実習
11	介護総合演習における知識と技術の統合化
12	介護総合演習における介護観の形成
13	実習目標・実習生個人表作成①
14	実習目標・実習生個人表作成②
15	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成①）
16	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成②）
17	実習の振り返り（実習報告書・自己表表作成③）
18	介護実践の科学的探究（事例研究①）
19	介護実践の科学的探究（事例研究②）
20	介護実践の科学的探究（事例研究③）
21	介護実践の科学的探究（事例研究④）
22	介護実践の科学的探究（事例研究⑤）
23	介護実践の科学的探究（事例研究⑥）
24	介護実践の科学的探究（事例研究⑦）
25	介護実践の科学的探究（事例研究⑧）
26	介護実践の科学的探究（事例研究⑨）
27	介護実践の科学的探究（事例研究発表会①）
28	介護実践の科学的探究（事例研究発表会②）
29	介護実践の科学的探究（事例研究発表会③）
30	介護実践の科学的探究（事例研究発表会④）

授 業 概 要			
介護実習Ⅰ－1 （基礎①）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	介護福祉学科専任教員	有
実習日数 14日間	時間数 91	配当学年・時期 1年通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケ ーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。また、地域における様々な場や職種等の機能・役割を理解する。

［授業全体の内容の概要］
講義、演習、実技演習で学んだ知識や技術を用いて、地域や施設で生活されている利用者の介護の実際を行う。利用者とコミュニケーションをとり、援助関係を構築して利用者の介護ニーズを捉え、基本的な介護を行えるようにする。
・高齢者施設（入所・通所施設）等を利用される方との触れ合いから、生活支援の意味を考える。
・利用者、職員、仲間同士などそれぞれにきちんと挨拶をし、適切なコミュニケーションをとるように努める。
・利用者、職員の一日の流れを知る。
・与えられた課題に積極的に取り組み、利用者の要求・思い、また職員の役割や思いを知るように努める。
・介護実習Ⅰ－3での「個別生活支援技術の実践」を意識して、1日をとおした介護場面を見学、体験する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・介護という仕事に向き合い、自分を見つめ直すことができる。
・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活 を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を理解する。
・職場での基本的な倫理やマナーを身につけ、利用者・家族と適切なコミュニケーションが図れる。

実習先種別
・介護老人保健施設
・通所リハビリテーション
・介護老人福祉施設
・通所介護
・特別養護老人ホーム
・障害者支援施設
・認知症対応型共同生活介護
・小規模多機能型居宅介護
・看護介護小規模多機能
・認知症対応型デイサービス

日程
1年次　8月～12月のうち14日間　　合計91時間

≪備考≫
感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全ての内容を変更する場合があります。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座10（株）中央法規	各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする

授 業 概 要			
介護実習Ⅰ－1 （基礎②）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	介護福祉学科専任教員	有
実習日数 14日間	時間数 91	配当学年・時期 1年通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケ ーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。また、地域における様々な場や職種等の機能・役割を理解する。

［授業全体の内容の概要］
講義、演習、実技演習で学んだ知識や技術を用いて、地域や施設で生活されている利用者の介護の実際を行う。利用者とコミュニケーションをとり、援助関係を構築して利用者の介護ニーズを捉え、基本的な介護を行えるようにする。
・地域密着型サービス等を利用される方との触れ合いから、生活支援の意味を考える。
・利用者、職員、仲間同士などそれぞれにきちんと挨拶をし、適切なコミュニケーションをとるように努める。
・利用者、職員の一日の流れを知る。
・与えられた課題に積極的に取り組み、利用者の要求・思い、また職員の役割や思いを知るように努める。
・介護実習Ⅰ－3での「個別生活支援技術の実践」を意識して、1日をとおした介護場面を見学、体験する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・介護という仕事に向き合い、自分を見つめ直すことができる。
・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活 を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を理解する。
・職場での基本的な倫理やマナーを身につけ、利用者・家族と適切なコミュニケーションが図れる。
・認知症の理解を深めるとともに安心できる生活支援の意味を考えることができる。

実習先種別
・介護老人保健施設
・通所リハビリテーション
・介護老人福祉施設
・通所介護
・特別養護老人ホーム
・障害者支援施設
・認知症対応型共同生活介護
・小規模多機能型居宅介護
・看護介護小規模多機能
・認知症対応型デイサービス

日程
1年次　8月～12月のうち14日間　　合計91時間

≪備考≫
感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全ての内容を変更する場合があります。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座10（株）中央法規	各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする

授　業　概　要			
介護実習Ⅰ－3 （基礎実践）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	介護福祉学科専任教員	有
実習日数 17日間	時間数 112	配当学年・時期 2年通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
対象者の生活を理解し、個別性に応じた基礎的な生活支援技術（介護技術）を、自立支援・安全と安心・尊厳の保持に向けた配慮の視点から実践できることを目的とする。また、多職種連携に基づく情報収集の実際を理解する。

［授業全体の内容の概要］
個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活場面において個別ケアを理解して、りようしゃ・家族とのコミュニケーションの実践、個別生活支援技術（介護技術）の確認、実践、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解し、実践する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・基本的な個別生活支援技術（介護技術）全般が実践できる
・個別支援に必要な情報収集ができる。

実習先種別
・介護老人保健施設
・介護老人福祉施設
・特別養護老人ホーム

日程
2年次　5月～10月のうち17日間　　合計112時間

≪備考≫
感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全ての内容を変更する場合があります。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座10（株）中央法規	各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする

授　業　概　要			
介護実習Ⅱ （専門実践）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	介護福祉学科専任教員	有
実習日数 24日間	時間数 163	配当学年・時期 2年通年	必修・選択 必修

［授業の目的・ねらい］
本人の望む生活の実現に向けて、多職種 との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。介護実習Ⅰ（1～3）で学んだことを基礎に、「目の前のひとに寄り添ういちばんの存在」を意識して介護実習を総合的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］
個別ケアや本人の望む生活を実現するために、個々の生活リズムや個性を理解して、利用者のニーズに沿って対象者んび対する個別介護計画の作成、実施、実施後の評価計画の修正といった介護過程を多職種協働のもと展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を身に付ける。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程が展開できる。
・介護過程の展開を通して、チームケアを理解できる。
・「目の前の人に寄り添ういちばんの存在」になる。

実習先種別
・介護老人保健施設
・介護老人福祉施設
・特別養護老人ホーム
・障害者支援施設

日程
2年次　8月～12月のうち25日間　　合計163時間

≪備考≫
感染症、その他社会情勢等によって、開講時期・年度の変更および、一部または全ての内容を変更する場合があります。

［使用テキスト・参考文献］
●最新・介護福祉士養成講座10（株）中央法規

［単位認定の方法及び基準］
各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする

授　業　概　要			
医療的ケアⅡ（演習）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	城戸千景・介護科教員	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	2年通年	必修

［授業の目的・ねらい］
喀痰吸引、経管栄養の具体的な手技の習得のための技術を身に付けることができる。救急蘇生法を習得する。

［授業全体の内容の概要］
喀痰吸引、経管栄養の手順を1つ1つ理解していく。救急蘇生法の演習を行う。

［授業終了時の達成課題］
喀痰吸引、経管栄養の具体的な手技の技術が身に付く。救急蘇生法の技術が身に付く。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	喀痰吸引の手技の実際①
2	喀痰吸引の手技の実際②
3	喀痰吸引の手技の実際③
4	救急蘇生法演習
5	経管栄養の手技の実際①
6	経管栄養の手技の実際②
7	経管栄養の手技の実際③
8	まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
●最新・介護福祉士養成講座15（株）中央法規	実技試験